

平成25年 第2回 教育委員会定例会議事録

招集日時 平成25年2月19日(火曜日) 午後3時30分開会/午後6時15分閉会
招集場所 加賀市役所別館3階 302会議室
出席委員 上田政憲、石橋雅之、酒谷百合子、畑中直子、旭直樹
会議列席者 掛山事務局長、宮本次長兼学校指導課長、中矢次長兼九谷焼美術館副館長、梶谷教育庶務課長、西出生涯学習課長、中野スポーツ課長補佐、田嶋文化課長、寺田図書館長、米屋教育庶務課長補佐

上田委員長 平成25年第2回教育委員会定例会開会宣言
挨拶
それでは議案4号について事務局よりご説明お願いします。

■ 議案第4号 平成24年度3月補正予算について
梶谷課長 中野課長補佐 資料に基づき説明

上田委員長 ただ今の3月補正予算につきまして、質問、ご意見ございますか。事業の確定と国の補正によるものですから特にないかもかもしれませんが、よろしいですか。ないようでしたらこの議案についてご承認いただける場合は、挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手

上田委員長 ありがとうございます。それでは、次の議案第5号ですけども、膨大な資料が付いております。これは各課ごとにご説明いただき、その都度ご意見をいただいてから次に移ろうと思っておりますが、よろしいでしょうか。それでは掛山局長をお願いします。

■ 議案第5号 平成25年度当初予算について
掛山局長 梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長 ただ今、教育庶務課長より来年の予算について説明がありましたけども、これにつきまして質問、ご意見がございましたらお聞きしたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。はい、教育長。

旭教育長 教育委員会事務局の一員ではあるんですけども、教育委員として気になるのでもう一回確認なんですけども、23ページの教育体制整備計画策定事業が予算化されて、完成予定が平成26年3月になっていますけども、そのスケジュールですね。菅谷小学校は来年は20名を切りません。

掛山局長 23名です。

旭教育長 23名でしたね。黒崎小学校は来年18名で、新1年生は1名です。新2年生が何人いたかわかりませんが、2~3人いたかと思います。

掛山局長 少し増えるんですね。

旭教育長

20人を切り、新しく1年生が入ってくる段階では、移行処置で教頭が1名配置されます。事務員も本当はだめなんですけど、配置されるようにしています。今も配置されていますけど、次の年の平成26年を見ると新1年生は1人です。ゼロになるかもしれません。そうすると複式といっても、1年生と2年生を合わせても2人で授業するか1人で授業するか、それは複式にもなりません。3・4年も含めてやらないといけない。いかに保護者が「いいよ」と言ってくれたとしても、集団教育の場としてはもう限界なんです。子どもの教育ができません。だから、勉強会をしてきましたけども、私は今年度中に、もう2月ですので3月までに、教育委員5人でこのように決めましたという案を市長に報告しなければいけないのではないかと考えております。そして4月の25年度から有識者を入れて、加賀市教育委員5名はこんな案を持っていますと意見を聞いてもらいたい。それを基にして我々5人で、黒崎小学校は今チャンスですから、橋立小学校へ一緒になったらどうかと提案したい。この前、新聞記事で統合に反対して自殺したという記事もありましたけども、学校現場としてはできないのではないかな。この会議自体は8月いっぱいまでに地元に行っていかないといけない。いろんな予算とか、来年の人員配置、人事の問題もあると、地元で説明するのが9月から10月に入ると絶対に遅いんです。そこの計算はされていますか、ということなんです。していないとまた1年延びる。犠牲になるのは子ども、不安になるのは保護者です。教育を預かる教育委員会事務局としては、非常に無責任であると思うんです。子どもの潜在能力を伸ばす、子どもにとっての環境としてこれでいいのか、サインを出していかないといけない。教育現場、子どもの立場、保護者の立場を代弁してどうしないといけないかという方向を持たないといけない。何でもかんでも先延ばしというのはいけない。事務局の立場を離れて委員として発言しましたが、また事務局として相談したいと思います。

上田委員長

はい、掛山局長。

掛山局長

教育長さんが言われたように、常に相談しているんですけども、この会で話されたものは原案として作ってあります。何人になったらどうだとか、地元協議を開始するのはいつだとか、これを一度、教育委員さんと市長を交えて協議していただきたい。もう一つ、この教育体制整備計画についてですが、市長が自分で書かれた本の中で地産地学という言葉を作られて、それについて自分の意見を述べられております。3番目の加賀温泉駅周辺文教ゾーン整備の部分が、市長の頭の中ですごく大きな構想として描かれている関係で、加賀市内の高校のことも含めて小学校・中学校の連携ももちろんそうですけども、中学校と高校をどう繋いでいくのか、市長のお考えも確認して、教育委員としてどうするかということをもう一度協議していただきたいと考えております。ただし、梶谷課長が言いましたように平成26年3月と書いてありますけども、市長はもっと長期間で思われております。これは、県内外からの有識者の意見を聞けということで、当初は委員の中のメンバーとして考えておられましたけども、今は顧問という扱いで考えればいいということです。その時々に応じて来ていただいて、ご意見をお聞きすると

いうやり方です。どこまでまとめられるかは難しいんですが、教育長が言われたように待ったなしの適正規模・適正配置の部分です。ここは正念を据える必要があると思っていますので、教育長さん、委員長さんに少しお骨折りをお願いしたいと思います。教育委員の皆さんも含めてよろしくお願いします。その会に全員揃うということも難しいので、お一人だけ来ていただくとか、それ以外にPTAの方に入っていたりとか、それはその都度、審議事項に応じて関係の方に入っていたらいいのではないかと思います。保護者の生の声を聞かせていただくとか、そういう場もセットすればいいと思います。皆さんには本当に申し訳ないですけども、これは定例会とは別でやっていくしかない。これが事務局に課せられた大きな課題です。

旭教育長 大きな課題ですね。政治的な問題もありますね。新幹線が加賀温泉につきますけども、市長の大きな構想、我々もイメージとして生まれ変わるにはそれしかないと思います。加賀温泉駅を拠点にして放射状に一つの加賀市を作ろうとしている。今までは山代、大聖寺、山中、片山津と分散型の加賀市で中々一つになれないので、そういう影響下で大聖寺高校なり加賀高校なり、地元の学校へあまり行かずに、48%も小松の高校を受けるような異常な地域になってしまった。放っておいたらますます酷くなって、風評被害で地元を毛嫌いして出ていくでしょう。出て行くことは問題ないんですけども、バランス感覚というものが必要だということで、交通アクセスの問題もあるし、加賀温泉駅につくのは平成何年でしたか。

掛山局長 平成26年度末です。

旭教育長 それは金沢暫定です。加賀温泉駅になるのは平成37年か36年かちょっとわかりませんが。

掛山局長 ちょっと出てきません。10年ほど後になります。

旭教育長 そうすると、工事その他を逆算していくと、それまでに見通しをつけないといけない。だから、喫緊の菅谷小や黒崎小の問題を解決していかないといけないということと、大体今から10年後の教育委員会の方向性を決めていかないといけないということです。加賀市の生まれ変わりのためにやるので、大所高所からご意見をいただかないといけないと思います。

上田委員長 これは少し内容に踏み込んでご説明いただいたんですけども、当初から私たちが教育委員としてこれからやらないといけない仕事として頭には入っていました。実際に動き出すことになるという気がしています。これに関して何かお聞きになりたいことはございますか。他によろしければ、学校指導課の説明をお願いします。

宮本次長 資料に基づき説明

上田委員長 予算については、スクールソーシャルワーカーの件以外は昨年とあまり金額は変わりませんね。

宮本次長 それほど変わらないんですけど、教育長さんが先ほどおっしゃいました、特別支援教育支援員の部分で、中学校の人数を前年度に比べますと4名増やしました。8ページの生徒教育振興費というところの(1)上から2番目、この部分が400万円近く増えています。小学校は変わりません。

上田委員長 ただ今のご説明につきまして、質問、ご意見はございませんか。はい、石橋委員。

石橋委員 スクールソーシャルワーカーが配置されるということですが、まずこの2名のあてがついておられるのかということと、財源内訳を見ますと、その大半が県の緊急雇用創出事業で、これがいつまで続くのかという思いもありますし、もちろん市独自の予算もあると思いますけども、当然1年だけで済む話ではないので、見込みをお聞かせ願えればと思います。いかがでしょうか。

宮本次長 まず、一つ目の人材はいるのかということですけど、大変難しい話でございます。こういう仕事を誠心誠意やっていただける方を簡単に見つけることはできませんけども、現在1名の方をお願いしています。もう1名の方はあてにしていたのですが、ちょっと難しいということで、もしも相応しい方がいらしたらこちらに情報をいただけたらと思います。予算の継続性についてはわかりません。

掛山局長 たまたま来年度、緊急雇用がついたもので、財源がなくても当初から一般財源で雇用するつもりでした。こういうものがつければ利用していくというだけのことと、今後この事業は継続していきます。来年度以降は、その都度必要なものがあれば充てていくというだけです。

上田委員長 石橋委員よろしいですか。

石橋委員 はい。

旭教育長 酒谷委員さん、石橋委員さん、前の木谷さん、小林さんは東京で見ておられます。私も行きたかったのですが、所用で行けませんでした。配置するからにはしっかりと機能できるようにしないといけない。誰でもいいからと人を充てても、機能しないと意味がないので、事務局も実際に見てこようと思います。福井にもソーシャルワーカーを置いている市町がありますので、どのような勤務形態なのかをまた調べていきたいと思います。あとは人員配置だけが問題なんです。やはり金沢市は人が多いんですね。児童相談所のOBの方に来てもらっているんです。これはいいなと思って、南保健所の課長さんに電話して誰かOBの方でいないかお聞きしましたが、皆さん金沢にお住まいで加賀市までは遠すぎるということと、毎日8時間勤務になりますし、臨時というわけにはいかないんですね。その家によっては夜になる場合もあるでしょう。そういう場合は、午前中は来ないで昼から勤務してもらえればいいんですけども、夜勤務が多くなると難しいんです。一応予算化は計画したんですけども、もう少しこちらであたってみていい方がいたらお願いしたいと思います。現状はそういったところです。

上田委員長 難しいですね。委員の皆さんの中で、もしいい人を知っていらっしゃったらご推薦いただきたいと思います。

石橋委員 もう一つよろしいですか。今の話で自分が言っておいて何ですけども、資格や能力的な判断はどのようにするのか。要するに、どのように判断して推薦するのか

という問題と、もう一つ、雇用された場合に市でどのような立場にあるのかという
 ことを確認しておきたい。臨時職員なのか正規職員なのか、ある程度ははっきり
 した上でないと話もしづらいのかなと思います。

掛山局長 まず資格ですけども、事務局の中で話していますのは、資格云々は度外視で人物
 本位です。そういったことに熱意があり、対応が慣れていると言ったら失礼です
 けど、ひどい家庭の中に入れていただくわけですから、それ相応の覚悟をしてい
 ただかなければなりませんので、資格というより人物を優先します。それと、こ
 の方の身分はあくまでも臨時職員です。この300万円というのは加賀市の中でも
 臨時の経費としては高い金額です。それでよろしいでしょうか。

石橋委員 はい。

上田委員長 1日の勤務はどれくらいですか。

旭教育長 7時間45分勤務で、月～金曜までありますから、月でいうと20数万円はあります。

酒谷委員 よろしいですか。杉並区に行ったときに、確か皆さんが「私たちは1年契約だから
 来年どうなるかわからない」と言っていましたけど、例えば1年契約だとする
 と、毎年それで悩まなければならないのではないかということと、また次の年に
 見つけるのは大変ではないかなという思いがあるんですけども。

旭教育長 加賀市ではそんなことしませんし、してはいけない。東京はたくさん人がいます
 から。しっかりと突出した子についてほしいという気持ちで、地域に根ざした人
 をお願いしております。1人いるんですけど、もう1人の方は非常にいいんですけ
 ども既に活動されていて、それを仕事にしまったんです。それを二重にして
 しまうと、自分の仕事のために市の仕事を利用することになってしまうのでそれ
 はできないです。

上田委員長 それではよろしいでしょうか。生涯学習課より説明をお願いいたします。

西出課長 寺田図書館長 資料に基づき説明

上田委員長 今のご説明について、質問、ご意見をお聞きしたいと思います。はい、石橋委員。

石橋委員 図書館に軽飲食ができるコーナーを設けると書いてありますが、今まではできな
 かったんですね。

寺田館長 図書館は原則禁止になっております。中央図書館では展示コーナーのところにち
 ょっとしたテーブルとイスを置いて料飲をできるように、山中図書館は2階にホ
 ールがございまして、小さな場所ですけどもそこに設けようと思います。

石橋委員 軽飲食ということは物を食べられるということですね。販売もするんですか。

寺田館長 販売はいたしません。自分で持ち込んでもいいということです。

石橋委員 そこに図書館の本を持ち込むのは大丈夫なんですか。

寺田館長 本を持ち込む場合、汚したら本人の責任になりますので一度借りていただきま
 す。

上田委員長 専門職員の配置は何人くらいですか。

寺田館長 1名です。

上田委員長 他にございませんか。

酒谷委員 お聞きしていいですか。軽飲食コーナーや授乳室はやはり要望があるんですか。

寺田館長 中央図書館の場合ですが、最近は熱中症の問題がありまして、一応2階の学習室には蓋のできる飲料だけは認めております。図書館に来られる方でも水筒を持ってこられる方が最近多いので、飲む場所を提供してあげればそこで飲んでいただけたと思います。以上です。

上田委員長 わかりました。酒谷委員よろしいですか。

酒谷委員 はい。

上田委員長 はい、教育長。

旭教育長 山中小唄の件を進めておられるのは大変ご苦労様で、私もちょっとわからないんですけども、山中節というのは確かに温泉情緒があって、加賀市が全国に発信すべき情緒豊かな民謡です。だから加賀市の指定無形文化財になっていると思うんですけども、その節が非常にいいということで伝統を守っているグループがおります。山中小唄から派生して、いろんな民謡会で説があったりして、ぶつかったりしないのかお聞きしたいのですが。

掛山局長 山中小唄の事業化のために、少し勉強をさせていただきました。市長も随分調べられていて、北陸民謡とか、長岡さんという方が書かれた山中節に関する論文があるんですけども、そこには市長が書かれたサウンドスケープと同じようなことが書かれていて、昭和初期に初代米八さんが山中節を確立したんですけども、それ以前にも明治41年に書かれた歌詞の原稿があります。そのときはまだ山中節とは言わなかった。大正に入ってからこの温泉情話の映画ができるんですけども、その歌詞が山中節そのものなんです。ただ、メロディがどうなのか今日も生涯学習課と打合せをした中で、残っているレコードを聴いて多少違うのではないかという話をしていましたが、山中節に仕上げたのは米八さんに間違いありません。そこに至る経緯の中で、山中小唄として全国に映画を持ち歩いたときに、本当にあったのかわかりませんが、長岡さんの書物に書かれている山中の笹家という芸者置屋があるんですけども、そこに力弥という芸者さんがいて、その方が全国を付いて回ってPRをされたと書かれていました。その力弥さんのレコードが金沢の蓄音器館で見つかったもので、生涯学習課長が中心になってレコード鑑賞をして確認します。山中支所の越前さんも一緒に来ていただいて、節回しを確認してみようということで、ひょっとすると山中節が広がったのは山中小唄からだろうということです。広がった後にそれをまとめたのは米八さんであろうということも含めて映像化したいと思います。

旭教育長 私も山中なもので、山中には非常に愛好家とかグループがあるんです。違う方向へやっていると、加賀市は何をするんだということでもめないか心配です。そこだけ調整していかないといけない。

掛山局長 山中支所の職員にも入っていただいておりますので、きっといいものができると思っています。トラブルはないと思います。

西出課長 本来発祥地の北前船の船長さんとかは、歌って覚え伝えたと言われております。

発祥はそうだと思いますし、それを全国的に広げていったのが映画とか山中小唄だという理解です。

上田委員長 企画としては大変素晴らしいと思います。うまく支持されるような形にさせていただきたいと思います。

中野課長補佐 資料に基づき説明

上田委員長 ただ今のご説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。このマラソン大会ですけれども、コースも新しくなり、種目も増えているからだと思いますけれども、1,700万円というのは昨年度の予算より増えていますね。

掛山局長 去年は300万円です。

中野補佐 去年の種目なんですけれども、ハーフマラソンという種目を今回はコースの関係でどうしても行えないということになりまして、種目数としては減っております。ちょうどハーフマラソンの折り返しポイントの道幅が極端に狭いため、今回は取りやめさせていただきました。

上田委員長 はい、教育長。

旭教育長 去年は300万円ですけれども、この財源内訳の南加賀広域圏事務組合基金運用交付金は昨年もついたんですか。来年はつく予定ですか。

掛山局長 財源については、財政課でつけていただいたので、来年に関してはここではわかりません。去年は全額ついていました。

旭教育長 来年はまた考えないといけないでしょうけど、1,700万円の内訳としては、新しいコースなもので看板を全部作り変えないといけない。ものすごい量です。それは来年、再来年は使えるでしょうけど、全て新しいから要るということです。だから来年は減ると思います。もう一つは、加賀市で一番大きなイベントは何かと探すと、これではないかと思うんです。参加するのはどれくらいかわかりませんが、去年は3,000人でも大変だったんです。スタッフが半端な数じゃないんです。スポーツ課が各町内会を回って、2〜3時間走っている間は車も出してはいけないと沿道の人を止めないといけませんから、いろんな所にご協力を願う大変な事業なんです。おそらく教育委員会のスタッフ全員が補助員にならないといけませんし、首長部局の市職員も7割以上出してもらわないといけません。それにボランティアもいっぱい来てもらわないといけません。スタッフだけで1,500人くらいになります。加賀市の7人に1人はここに關係してきます。だからまずは事故のないようにするんですけれども、運営するだけでも大変なんです。やるからには何としても成功させていかないといけないので、我々が主催者ですので、皆さんもぜひ町内会等で協力していただけないかお声を掛けていただきますようお願いいたします。

石橋委員 マラソン大会に関してですが、各町内会等の文書に載っているんでしょうか。具体的にはどんなお願い、要請がいつているのでしょうか。

中野補佐 今の段階で申し上げますと、各地区、町内には交通規制のお願いです。それも最

終場面を迎えておりますので、今後ボランティアの協力をお願いする具体的な数字を出す予定です。

石橋委員

ただ沿道に出て応援してほしいという話ではないんですね。

中野補佐

今回コースを大幅に変えた関係で、細かい路地のある所を走るの、交通規制に関する係員の数が半端じゃありません。当然各種団体からのボランティア協力を要請しておりますが、町内からも町の方にもお願いしていただくしかない状況です。また一つよろしくお願いいたします。

旭教育長

私もわからなかったんですけども、この本道を走るならそこだけ止めればいいと思っていたんですが、独居老人がいたりしますし、生活圏を止めることになるからいろんな迂回路を作らないといけない。そこに1人だけおればいいというわけではなく、迂回路を誘導しないとけないし、そういった路地裏にも出ないといけないと警察の方はおっしゃるんですね。もちろんそうだと思います。そうしたらどんどん膨れ上がってきたということで、1月中旬くらいから今日まで1ヵ月近く、掛山局長とスポーツ課を中心に連日加賀市内中を説明して回っています。次なる手は周知、この時間帯は出れませんよ、できたら応援してください、スタッフにもなってくださいと両方お願いしていかないとけない。今2月中旬ですので、1ヵ月くらいそういった運動をしていかないとけない。

上田委員長

わかっただくというのが一番大事な仕事ですね。はい、中野課長補佐。

中野補佐

3月の広報にA3版のカラー両面印刷で、コース全体図及び山代、山中、片山津の主要ポイントの交通に関する折込を入れる予定です。そちらの方もご覧になっていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

上田委員長

これは各家庭に1部ずつ配るということですね。

中野補佐

はい。

酒谷委員

よろしいですか。一昨年でしたか、いろんな事業所の方が宣伝員みたいなことをやっていたと思うんですけども、今年はないんでしょうか。それともう一つ、たくさんの方が加賀市にいらっしゃるんですが、温泉地の経済効果は生まれているんでしょうか。

掛山局長

今回は特別協賛ということで金額を言いますけども、大同工業さん100万円、ミズノ、MRO、MROは金額ではなく100万円相当の放送、要するにサービスを提供していただいた。その他に協賛として月星さん、東野産業さん、農協さんから30万円ずついただいております。その他にも広告をとっております。まだ時間はありますので、スポーツ課長を中心にお願いに回っております。それと経済効果についてですが、昨年もですけど、各旅館でパック商品を作っていたいております。送迎付きで一泊いくらという商品を作っていたいただいて、山中では翠明さん他3旅館、山代でも何箇所か作っていたいただいております。全部入っていただくのが一番いいんですけども、これは知名度が上がれば上がるほど各旅館さんに入っただけだと思います。片山津も3旅館と、少しずつ増えてきています。そういったところにも広告をお願いしておりますし、それが増えてくると少しずつ経済効果も上がってきます。昨年は中々調べられなかったんですよ。3,000人

といたしますけども、北陸3県から半分以上来ていますから、旅館の方で把握しきれなかった。今年はある程度しっかり把握したい。それは観光交流課にもそういうふう把握して下さいとお願いしております。それと、温泉のお湯を少し安くしていただいて、マラソンに来た方には、山代も山中も片山津も総湯は無料で入っていただけるんですけども、一般の旅館のお風呂も金額を少しお安くして入っていただけるようお願いをしまして、もう何件か手を挙げて来ています。

上田委員長 わかりました。ご協力がないとできないことだと思います。よろしく願いいたします。それでは最後、文化課より説明お願いいたします。

田嶋課長 資料に基づき説明

上田委員長 何かご質問等ございましたらお願いします。はい、石橋委員。

石橋委員 まず、大聖寺藩十万石文化再生事業ですが、文化課としてはいつ頃までの目途をつけられているのかということが一点。加賀大聖寺人物館整備事業ですが、現在何名ほどの人物を取り上げのご予定なのかをお聞きしたい。

田嶋課長 まず、十万石文化再生事業はいつ頃までかというご質問ですが、はっきりいつまでというのはございません。大手長屋門にしましても、一度に全部作ってしまうのは難しいのではないかと思います。全部復元するとなりますと、200メートルありますので、市だけではなく地元、民間の皆さんのご理解とご協力を得ながら進めていきたいと考えております。ですから、それもおそらく分割していくかと思えますし、将来的に決まっているわけでもありません。例えば御殿まで復元いたしますと、まず学校からどいていただかないといけないということになってしまいます。全く計画ができておりませんので、今の段階でいつまでというのはこれからの皆さんのご要望なり計画なりが立っていく中で決まっていこうと思えます。それから人物館は何人くらいかということですが、これにつきましては、今回有識者を入れまして人物の選考委員会を立ち上げました。ちょうど昨日、最後の人物選考委員会にお集まりいただいてご審議いただきました。まず紹介する人物を50人に絞りました。50人と言うとそんなにたくさんいるのと思われるかもしれませんが、実は100人くらいいる中から50人に絞ったんです。それだけ加賀市からたくさんの人材が出ております。もちろんその50人を一度に展示というのは、それだけのスペースがあるとはとても思えませんので不可能でございます。一応50人を選びまして、順次入れ替える形で紹介していく。いつ行っても何も変わらないというより、定期的に入れ替えをしていくことで新たに紹介するという展示館にしたいという思いもありますので、そういった形でやっていきたいと思っております。

上田委員長 他にございませんか。はい、畑中委員。

畑中委員 平成27年の九谷焼開窯360年記念事業というのは、具体的に何をもって開窯というのでしょうか。

中矢次長 明暦元年、1655年の銘が入った田村権左右衛門の花活けがあるんですけども、これが古文書によりますと、地元の九谷村の神社に初窯の製品として奉納したものであるということが明記されております。残念ながら本物は現在、東京の富岡八幡宮に所蔵されておりますが、九谷焼美術館ではその完全なレプリカを作りまして展示しております。そこにしっかり明暦元年と書いてございますので、1655年をもって古九谷の窯が開窯したと考えている次第でございますので、2015年は360年ということでございます。平成27年に360年を迎えると理解していただければと思います。以上です。

上田委員長 他に何かございませんか。

旭教育長 今回の畑中さんの質問がなぜ大事かという、本家にあたる有田焼がこれより40年前に開窯しているんです。そこから逆算して、新幹線ともかけて360という数字を出してきたんです。だからこれは科学的根拠がどうのというわけじゃないんです。

中矢次長 美術館副館長としては、明確な根拠があると申し上げておきたいと思ひまして、明暦元年、1655年の田村権左右衛門銘でございます。

上田委員長 それでは各課の説明を全てお聞きしましたので、承認される方は挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手

上田委員長 ありがとうございます。承認されました。よろしく申し上げます。それでは、議案第6号について説明お願いいたします。

■ 議案第6号 加賀市美術品等購入基金条例の廃止について
中矢次長 資料に基づき説明

上田委員長 ただ今の説明につきまして、ご質問等ございますか。大変わかりやすい説明でした。はい、梶谷課長。

梶谷課長 すみません、7ページの附則の施行日ですけども、平成25年に訂正します。

上田委員長 これは印刷ミスですか。

梶谷課長 当初は平成26年の予定だったんですけども、前倒して平成25年にするということなんです。

上田委員長 わかりました。他によろしいでしょうか。では、ご承認の方は挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手

上田委員長 それでは、議案第7号について説明お願いいたします。

■ 議案第7号 行政情報の非公開決定に係る異議申し立てに対する決定について
掛山局長 資料に基づき説明

上田委員長 畑中委員さん、よろしいですか。

畑中委員 これは、生活指導センターに入所された方の親御さんが納得していないという話ですが、随分昔の話なんですね。

掛山局長 そうですね。

宮本次長 20年以上前の話です。

掛山局長 13ページの「本件処分対象行政情報の存否について」というところで、実施機関の説明等によれば、これは私たちのことですね。内灘町の生活指導センターは、石川県と保護者の同意のうえのみで入所可能な施設であった。そのため加賀市教育委員会がその入所に対して関与する立場でなかったため、入所することとなった経緯の分かる書類は作成されていない。だから不存在だということが理由です。他にいくつか書いてあるんですけども、それを行政情報審査会の方に諮問しました結果、加賀市教育委員会の決定は妥当であるという結論をいただきましたので、ご本人に決定通知書を送らないといけません。

上田委員長 ただ今、説明がありましたように、情報公開審査会からの答申を受けて加賀市教育委員会が異議申し立てを棄却するということがありますが、賛成の方は挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手

上田委員長 では、事務手続きなどよろしく願いいたします。

■ 議案第8号 加賀市文化財指定について
田嶋課長 資料に基づき説明

上田委員長 詳しいご説明ありがとうございました。文化財保護審議会のお墨付きがあるわけですから、承認していただければいいと思うのですが、何かご質問はありますか。

旭教育長 これは、加賀大聖寺人物館の50人の中にまだ当然入っていないと思いますが、絵の好きな方もいますから、いずれは出せるように資料やわかりやすい解説等を集めておいてほしいという要望です。

石橋委員 質問よろしいですか。この件は加賀市の文化財保護審議会の委員さん満場一致になっておりますけども、県立美術館で現物をご覧になりながらこの委員会を開かれたのでしょうか。

田嶋課長 実は、審議委員の皆さんには現物をご覧いただけていないんですが、審議の対象といたしまして、山ノ下寺院群の調査報告書で、県の文化財審議委員をされている先生の評価が書かれた文書をあわせてご審議いただきました。

掛山局長 教育委員の皆さんが見たいといたら見られるのですか。

田嶋課長 はい。それは日程等調整すれば、県立美術館は閲覧できると思います。

石橋委員 意見としていいですか。正直なところ、当然そういった美術品、文化財に興味をお持ちの方も多いため、本来ならば日程を調整して見ていただいた上で審議していただいた方がいいのではないかと思います。調査を信用していないわけではないんですけども、せっかくなので見た方がいいのではないかと個人的に思います。

田嶋課長 はい。次回からはそういう形でさせていただきたいと思います。
上田委員長 それでは文化財の指定につきまして、ご承認の方は挙手をお願いします。
全委員 全員挙手
上田委員長 ありがとうございます。それでは、報告案件にまいりたいと思います。報告第2号について説明をお願いします。

■ 報告第2号 加賀市立小中学校入学式への出席について
宮本次長 資料に基づき説明

上田委員長 ご都合はよろしいでしょうか。よろしくをお願いします。
宮本次長 入学式について、今回は祝辞なんですけども、原稿等については参考としてまたお持ちしたいと思しますのでよろしくをお願いします。
上田委員長 祝辞の参考としていただけるようでございます。
石橋委員 小学校は4人しか行かれないのですか。
旭教育長 私が入っていない。
宮本次長 中学校は全部行かれていますのですが、過去を見ると今までも委員さんだけです。確認します。
上田委員長 確認をお願いします。次にまいります。報告第3号について説明をお願いします。

■ 報告第3号 加賀市こども読書活動推進計画（改訂版）について
寺田図書館長 資料に基づき説明

上田委員長 旧との比較ができないんですけども、これについて何かご質問等ございますか。
寺田館長 旧の物は在庫をきらしていますので、コピーをして後で皆さんお送りしますが、それでよろしいでしょうか。
上田委員長 要らないです。古いものですから、そんな手間は必要ないと思います。新しく変わったということですね。5年ごとに見直しですか。
寺田館長 概ね5年です。
上田委員長 はい、石橋委員。
石橋委員 当然これらには目的があり、趣旨がありますが、これに基づいてどれくらい子ども達の理解力がついたのか検証はなされるのですか。
寺田館長 この会議の中で5年間の推移がどうであったかということになりますと、毎月23日が家庭読書の日ということで、各学校へも知らされております。それと、家庭読書の日を定めたことにより、保育園とかの環境についても本棚が増えるなど充実しました。小学校の司書につきましても、読書力向上に繋がったと聞いております。司書が増員されたことが一番であるかと思えます。
石橋委員 寺田館長がおっしゃったのは、全て目的を達成する手段ですね。その結果、子ども達の読書能力や読解力が上がっているか、難しいかもしれませんが、成果とし

- 寺田館長 出てきたことは検証しづらいと思って聞いたんですけども。
- 掛山局長 申し訳ないんですが、私どもの方で本当に上がったかどうかはわかりません。石橋委員のご指摘の部分は、学校指導課と協力しながらしっかり検証できるような体制に努めます。実は最後のところなんですけども、発行は加賀市立中央図書館ですが、問い合わせ先は学校指導課、市民部こども課です。それから保育園、学校と連携を取りながら検証できるように努めてまいりたいと思います。
- 宮本次長 読書週間を設けて読書量とか、推薦図書が増えることはありますが、読解力が確実についていることを検証するのは中々難しいと思います。ただ、環境をそのように整えていくことが、少しずつではありますけども、ゆっくりと子ども達本来の読む力の下地になるのではないかと考えております。ここ最近の学力調査を見ても、現代の子ども達の弱いところの一つは、長い文を集中して読むことです。それが面白い文で興味を持って読めれば、国語の時間の教科書なんかも読み込んでいける力がつくんじゃないかと思います。読書の推進自体は大事ですが、今の段階でそれが学力向上になっているかはわかりません。ただ、継続していくことが大事だと思います。以上です。
- 上田委員長 読解力だけではなく、読書の効果はいろんな形で出てきますね。その検証は、学校指導課でしようと思えばできるのですか。
- 宮本次長 読書量はわかりますけども、読解力は国語のテストの結果を見て検証するのは非常に難しいと思います。多分それが影響しているだろうとうことは言えると思いますけども。
- 上田委員長 それでは次にまいります。報告第4号について説明をお願いします。

■ 報告第4号 平成25年加賀市成人式の開催について
西出課長 資料に基づき説明

- 旭教育長 昨年飲酒はありましたか。
- 西出課長 飲んでから入ってきたのが、ほんの数名でしたがいました。今年は最初からそういう危険性があるということで目を光らせたいと思います。
- 上田委員長 アトラクションで踊るのはいないんですか。
- 西出課長 ありません。
- 畑中委員 私は初めてなのですが、教育委員の写真で着物を着る必要性はあるのですか。
- 西出課長 教育委員、議長、県会議員がいらっしゃいます。他市を見ますと、三役の方は集合写真に入っているところもありますし、別で撮られるところもあります。加賀市の場合は、従来その当時の記念写真ということで枠に入っていたいております。
- 旭教育長 式典ですから、礼服でいいと思いますよ。そんなに気にすることではありません。
- 上田委員長 次の報告第5号に入りたいと思います。ご説明をお願いします。

■ 報告第5号 「古九谷再興物語 青手九谷 吉田屋の魅力展」の報告について
中矢次長 資料に基づき説明

上田委員長 特にございませつか。これで関西方面からの集客に繋がってくればいいですね。以上で報告案件を終わります。それでは、その他(1)について説明お願いします。

■ その他(1) 教育問題講演会の開催について
掛山局長 資料に基づき説明

上田委員長 よろしいですか。続きまして、その他(2)について説明お願いします。

■ その他(2) 第1回加賀温泉郷マラソンの応募状況について

中野補佐 2月18日現在ですけれども、フルマラソンの部1,376名、10kmの部410名、5kmの部152名、3kmの部37名、2.4kmの部73名、計2,048名の申し込みをいただいております。昨年度実績から比較いたしまして、フルマラソンの部が昨年度781名のところ、現在ほぼ倍の方に申し込みいただいておりますが、目標とする5,000名にはまだ程遠い状況でございます。昨年度ハーフマラソン548名の申し込みをいただいておりますが、そのコースの中止が若干影響しているのではないかと思います。委員の皆様のお知り合いの方で、ランニングが趣味の方がおられましたらぜひお誘い合わせいただきたいと思ひます。以上です。

上田委員長 2,048名、最新の情報ですね。

石橋委員 締め切りは今月いっぱいですか。

中野補佐 今月末です。昨年も最後の一週間でかなり大量の申し込みがございましたので、もう少し増えるかもしれません。

上田委員長 そこに期待したいと思ひます。それでは、その他(3)について説明お願いします。

■ その他(3) 加賀市立学校財務事務取扱要綱(案)について

掛山局長 今日は随分時間が押しておりますので、一度お持ち帰りいただいて読んでいただきまして、次回の委員会で少しお話をしたいと思ひます。実は、学校の方には市の予算がいくんですけれども、校長先生と教頭先生がしっかりマネジメントしていただければいいんですが、中々忙しくて手が回らないため事務員の方が中心になってお金を動かすこととなります。先生方から若い事務員の方にこれを買ってほしいとか、これは市費で出せないのかと言われることがあり、口を出せない状況でお金を出していくこともあるんです。そうすると本来必要なものが、校長先生や教頭先生が管理しないままそこで処理されるということが出てきます。そうい

ったことを校長会や教頭会でしっかりお話させていただいて、校長先生や教頭先生は学校へ配当される予算について、事務員の方としっかり把握して下さいという趣旨をまとめたものが加賀市立学校財務事務取扱要綱です。それと、学校には預かり金というものがたくさんございます。要するにご家庭からお金を預かるんですけども、その準公金の管理も含めてこの取扱要綱を定め、学校に示していきたいというのが教育委員会事務局としての思いです。一度読んでいただいて、ご意見を聞かせていただければと思います。

上田委員長 要するに全く新しいものを作られたわけですね。

掛山局長 はい。

上田委員長 わかりました。では次回お願いいたします。進行不手際で随分時間をとってしまいました。今日は遅くなって申し訳ございません。

中矢次長 もう一つよろしいでしょうか。

上田委員長 はい、中矢次長どうぞ。

中矢次長 お手元に配付しました、こちら「ふかむらさき」と読みます。友の会の会報誌で、NPO 法人さろんど九谷が発行しているものです。そちらの 2 面をご覧ください。3 月 24 日に金沢 21 世紀美術館館長の秋元雄史さんの「九谷の未来」と題した記念講演会があります。九谷焼美術館 2 階ホールで入場無料ですので、もしお時間があればぜひお越し下さい。以上です。

上田委員長 他に何かありませんか。

梶谷課長 次回日程ですが、3 月 22 日（金）13 時 30 分よろしいでしょうか。

全委員 はい。

掛山局長 もう一つご提案させていただきます。実は、先ほど教育長さんが話された適正規模、望ましい教育環境について意見はまとまっているというふうに思うんですけども、3 月 14 日の講演会が終わった後でもいいですけども、教育委員会として意見をまとめてもらいたいと考えております。

旭教育長 市長にどう言いに行くかだけなんです。

掛山局長 委員長と教育長だけで市長に話していただくという手もあります。

旭教育長 今日は時間がありませんから、次回にでも皆さんに内容をまとめたものを出してもらいたい。

掛山局長 それでは、こういったことで市長と協議するという資料をお送りします。

上田委員長 よろしく申し上げます。それでは、これをもちまして平成 25 年第 2 回教育委員会定例会を終了させていただきます。ます。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。